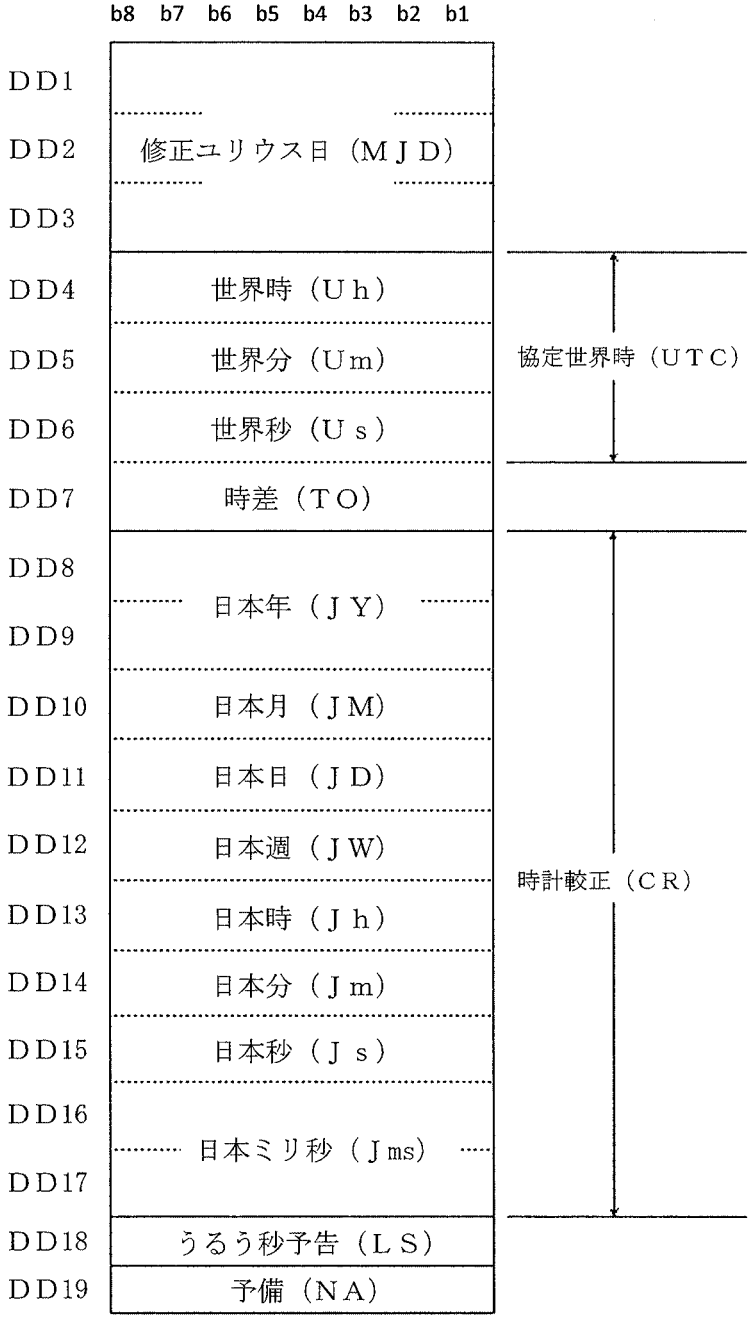
別記　データグループデータの構成



注１　修正ユリウス日（ＭＪＤ）

ＭＪＤはＤＤ１～ＤＤ３の３バイトとし、２進値で修正ユリウス日を示す。

２　協定世界時（ＵＴＣ）

ＵＴＣは世界時（Ｕｈ）、世界分（Ｕｍ）、世界秒（Ｕｓ）より成る。

⑴　ＵｈはＤＤ４の１バイトとし、２進値で協定世界時の時間を表すこととする。

⑵　ＵｍはＤＤ５の１バイトとし、２進値で協定世界時の分を表すこととする。

⑶　ＵｓはＤＤ６の１バイトとし、２進値で協定世界時の秒を表すこととする。

３　時差（ＴＯ）

ＴＯはＤＤ７の１バイトとし、２進値で協定世界時と日本標準時の間の時差を表すものであり、「18」とする。

４　時計較正（ＣＲ）

時計較正は、提示時間の制御を行う時計を較正するデータとし、日本標準時を用いて表す。

時計較正は、日本年（ＪＹ）、日本月（ＪＭ）、日本日（ＪＤ）、日本週（ＪＷ）、日本時（Ｊｈ）、日本分（Ｊｍ）、日本秒（Ｊｓ）、日本ミリ秒（Ｊｍｓ）より成る。

⑴　ＪＹはＤＤ８、ＤＤ９の２バイトとし、２進値で日本標準時の年（西暦）を表すこととする。

⑵　ＪＭはＤＤ10の１バイトとし、２進値で日本標準時の月を表すこととする。

⑶　ＪＤはＤＤ11の１バイトとし、２進値で日本標準時の日を表すこととする。

⑷　ＪＷはＤＤ12の１バイトとし、２進値で日本標準時の週を表すこととする。

月曜を「１」、火曜を「２」、水曜を「３」、木曜を「４」、金曜を「５」、土曜を「６」、日曜を「７」とする。

⑸　ＪｈはＤＤ13の１バイトとし、２進値で日本標準時の時を表すこととする。

⑹　ＪｍはＤＤ14の１バイトとし、２進値で日本標準時の分を表すこととする。

⑺　ＪｓはＤＤ15の１バイトとし、２進値で日本標準時の秒を表すこととする。

⑻　ＪｍｓはＤＤ16、ＤＤ17の２バイトとし、２進値で日本標準時ミリ秒を表す。

５　うるう秒予告（ＬＳ）

ＬＳは１分毎に現在の分の終了と次の分の開始の間におけるうるう秒の有無を予告し、以下の２進値とする。

うるう秒なしを「０」、＋１うるう秒を「１」、－１うるう秒を「255」とする。

６　予備（ＮＡ）

ＮＡはＤＤ19の１バイトとし、予備とする。

別表第六号　複合データ信号の構成及び送出手順

項目	内容
１　データグループの種別	ＤＧ構成１又はＤＧ構成２とする。
２　信号の伝送	複合データ信号は、多重副搬送波を使用する伝送方式の場合は、別表第一号第３項の表に示す論理チャネル（ＬＣＩ１とＬＣＩ２の組合せ）以外の任意の論理チャネルで伝送し、垂直帰線消去期間を使用する伝送方式の場合は、別図第二号注３の表の１から30までのうちの任意の論理チャネルで伝送し、音声信号副搬送波を使用する伝送方式の場合は、別図第三号注２の表の１から30までのうちの任意の論理チャネルで伝送する。
３　データの構成	⑴　ＤＧ構成１の場合、データグループデータの構成は、次のとおりとする。ただし、１のデータグループデータは、１のデータヘッダとそれに続く０、１又は複数のデータユニットにより構成されるものとする。また、１のデータグループデータにおいて、データクラスタデータをデータユニットデータとするデータユニットとデータセグメントデータをデータユニットデータとするデータユニットは、同時に存在させてはならないものとする。 データヘッダ　データユニット　……　データユニット